



号者局 平成19年7月20日 次所
 71長務 飯田恭次
 行 田賀出張
 第発事 用賀

民生委員 みんなの幸せを願って

三井信子 鈴木聖之
 人は誰でも幸せになりたいと願っています。然し、なかなか思い通りにならないのが現実です。高齢化、核家族化社会の現在、一人暮らしの高齢者、障がいのある方、子育てで悩んでいる若いお母さん、周りからの温かい手助けが必要でこの用賀地区には34人の民生児童委員がいます。福祉に関する事で何か相談事がありましたら、一人で悩まずお気軽にご相談下さい。私達は皆様と行政を繋ぐパイプ役です。勿論、個人のプライバシーは守る事になっています。

自然災害が心配されている現在、民生委員、児童委員、災害時一人も見逃さない運動も、全国的に展開しています。

いざという時には、近隣住民皆様のご協力が是非とも必要です。その時は皆で頑張りますよ。

(用賀地区民生委員児童委員協議会)



青少年 いま大事なところ

青野 長沼世紀
 このところ「再生」が改竄という名のウルスが蔓延している。しかし言葉の響きのままには受け取れない。ゆとり教育が叫ばれて20年近くになるが、「地域」が重要視され始めて10年に満たない。結成み教育を反省してゆとり教育へ移行してきたわけだが、試行錯誤の上、努力の成果も見え始めていいる今、成果の検証も無いまま「見直し」が叫ばれているのは不思議な事だ。用賀地区委員会としては言葉に惑わされず、地域の情報を共有し「データ」をいっしょに役目を大事にしたい。

(青野明子地区委員会会長)

まちを支える人びと

日本赤十字社 日本活動にかかわって

日本赤十字社 東京都支部、世田谷区赤十字奉仕団用賀分団、それぞれ役割分担し様々な活動を行っています。世田谷区赤十字奉仕団では、手作りの肩かけカバンをジンバブエに寄贈しました。用賀分団は、馬事公苑の区民まつりで、災害時用のアルファ米をお配りしたり、花火大会での救護などの活動を行っています。

私も、四十余年奉仕団員を続けておりますが、地域の皆様のお力添えと、お友達との支えがあってこそ活動です。

日本赤十字社からも皆様と共に活動していきます。

(日本赤十字用賀分団長)

地域交流 心の繋がりを深めよう

神戸生まれですが東京住まいが長く、中でも世田谷区には永らくお世話になっており、すっかり世田谷人になった気分です。

この度、玉川台区民センター運営協議会事業委員長に選任され、各種行事のお世話役に従事しております。が、地域の皆様との触れ合いが何よりの楽しみです。

天災や犯罪が続くなか、地域住民の心の繋がりの意義が説かれており、当センター委員の立場から少しでもお役にたきたいと念じ、微力ながら努めて参ります。引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

消防団 街の防人たち

玉川消防団 金子修一
 用賀出張所管内には、主に瀬田地域を受け持つ第五分団、玉川地域を受け持つ第七分団、用賀地域を担当する第七分団の三つの消防分団があつて街の安全を担っています。団員は普段はそれぞれ生業に就いていますが、一旦、火災が発生すると防火服に着替えて火災現場に出動する消防隊に変身します。街の行事の火災警戒にも一役かきます。団員は郷土愛に燃える地域のボランティアとして活躍しているのです。地元の皆様と地域愛に溢れた消防団。そして消防署は街の安全安心を守る重要な連絡の輪です。

木洩れ日

飯田恭次
 今、車社会を迎え、私たちの町は東京の西の玄関、環状八号線から東名高速道に入れば車は約三十分で厚木へ、インター出口の正面には丹沢の名山、大山が目の前に見えて来ます。

更に西へ向かうと、都立良野トンネルを抜けて御殿場、一時間後、富士山の裾野に到着します。

古く江戸時代、私たちの町には矢倉沢往還、又の名を大山道と云う道が通っていました。

夏、七月下旬、大山が山開きになると江戸市中から沢山の人が大山不動尊参りに、この街道を通り抜けて行きました。白い旅衣を着て腰に鈴を付け、街道筋の村人が所々に灯した常夜灯が道しるべの役目をしていました。

天保二年(一八三一)秋、三河田原藩三宅家の家老で画家、洋学者としても有名な渡辺華山が所用の為、従者一人を連れ、この道を厚木へと向かっています。

その旅日記には、渋谷で煙草を買い、目黒、用賀、瀬田を通り、二子の渡しで多摩川を越え、荏田、下鶴間、各一泊、三日目にやっと厚木に到着したとの文が綴られています。

時がゆっくりと流れていた頃、スローライフも又、楽しからずや……です。



郷土紹介

谷戸をたずねて

三子玉川 郷土史学会会長 池田良夫

用賀出張所の周辺には、品川用水、谷沢川、谷戸川、丸子川（治太夫堀）などの川と、仙川、野川が流れ、農業用の水源として古くから利用されている。

江戸に開港してから水は常に問題だった。井の頭を水源とする神田上水や玉川上水、治太夫堀など安定した水を求めて大工事が繰返されて来たといえよう。

品川用水や仙川は、玉川上水の取水口があり水源がわかつているが、谷沢川や谷戸川には水源らしきものがない。谷沢川は世田谷通りの先の、畑の中から湧いている泉が源だといわれる。

久しぶりの用賀で

用賀出張所長 山本誠一

四月より村上前所長の後任として着任しました。よろしくお願い申し上げます。

私は十年前、多くの地域の方に協力いただき完成した、てくてくぶつく（用賀・馬場公園コース）の事務局を勤めていました。

子ども達に、ふるさととして残したい場所や調べなど、三十三箇所を選び、本の製作と石標を建てました。皆さんと地域を歩き溜池跡の確認、田中橋や大山道追分では大山詣でに行く人の街道として、思いを馳せました。また、四百年以上前に建立された真福寺や無量寺では、時の流れを感じたものでした。

一説には、品川用水のもれ水とも伝えられるが確かではない。

奥多摩の山地から、平野に出た水や平地に降る雨は、地中で地下水の脈となつて世田谷の各地で噴き出す。湧水が、北沢、駒沢、深沢、奥沢等の沢の字の付く地名となっているが、周辺にもかつて水神様の池や溜池、用水池が存在していた。

古語で、谷の様に切れ込んだ地形を「マツ」「マツ」「ガツ」などと言うが、谷戸川も水源不明の川である。瀬田と岡本の境からミリパークを横切り、砦町から千歳船橋、祖師谷大蔵の小田急線の先まで続いている。源流探訪も面白いものだ。

このように歴史あるまちですが、十年の歳月は地域を変えてきています。

野家畑には一戸建住宅やマンションが建てられ、木挽れ日や日陰を作っていた木々は少なくなったように思います。

時は流れて

しかし、高台や園分寺崖線からは、富士山や丹沢が一望できる環境の良いまちです。

今、二子玉川は再開発の工事が始まりました。そして、各地区でまちづくりが進められています。

出所後は皆さんと協力して、安心で笑顔のある明るいまちづくりを目指していきます。



ふるさと石見

三好忠明

玉川に住んで31年、今では、すっかり都会の便利さに慣れて、故郷を思う事も少なくなりましたが、天気の良い日に、遠く丹沢の山並みを見ると、緑の中国山地や日本海に沈む夕日に思いを馳せる。

私の生国は、銀山で有名な石見の国、島根県と山口県の県境、益田市である。

山陰地方というところと何かと暗いイメージが浮かぶが、山の幸、海の幸が豊富で、日本の田舎の風景の残っている素敵な所である。

歴史の舞台として、大内尼子の古戦場、毛利氏の時代口マン、又、柳本八郎、雪舟、活弁の神様、徳川

スポーツ

夏の催しもの

①用賀くすのき公園 7月25日(水) 26日(木)

②二子玉川西地区 ふれあい広場 (玉川3丁目高架下) 7月27日(金) 28日(土)

③瀬田小学校 8月4日(土) 5日(日)

④用賀小学校 8月24日(金) 25日(土)

たまがわ花火大会 8月18日(土) 7時

二子玉川緑地運動場 納涼の夕べ 8月20日(月) 4時

用賀いらか道

Yoga Summer Festival 8月26日(日) 用賀駅前イベント広場



わが故郷

夢声など、人物往来の話題も多い。津和野は森鷗外の出身地だけに、観光のメッカとして人気がある。

山の幸の食物は、鵜の鳥取の梨ほど有名ではないが、葡萄をはじめ、西瓜などの果物が美味しい。

海の幸は、日本海の夜を彩る漁火の鳥賊漁だろう。その透明な鮮度の良いイカは絶品である。ひものは青魚と呼ばれる飛魚や、『のどぐろ』がおすすりである。

私にとって故郷の味は、母が時々送ってくれた、アルコールの入っていない純粋の蕨りウニだと思ふ。

※石見銀山跡は六月に世界遺産に登録されました。



今号は、「まちを支える人びと」ですが、毎日の様に報道される様々な事件は人々の支え合いの気持ちが薄らいていることから起っていると思えてなりません。支え合の語から思い浮かんだ詩の一節があります。宮沢賢治の「雨にも負けず」の中の数行です。

東に病氣の子供あれば 行つて看病してやり 西に瘦れた母あれば 行つてその病の束を負い

この様に、思いやり、助け合い、支え合うことが出来れば……。



(千野)